



MUSASHINO *for* TOMORROW

巻頭

私と母、絵と音楽

ヤマザキマリ | 漫画家・文筆家

Vol.137
May 2021



令和3年度を迎えて

武蔵野音楽大学学長

同附属高等学校校長

福井直昭

東京五輪開幕まで3ヶ月を切り、ゴルフの松山英樹選手や競泳の池江璃花子選手らアスリートたちの活躍が国民に夢や希望を与える一方、新型コロナウイルス感染症はいまだ収束の見通しが立ちません。

2020年度——

新しい時代の音楽大学の在り方を探る

振り返りますと、昨年来、本学におきましては、学生・教職員の皆様の健康と安全を守りながら、オンライン授業への切り替え、レッスン室等諸設備における感染予防対策の徹底など、学業を継続するため様々な工夫を重ねてきました。それは、江古田新キャンパスという空間と、オンライン教育双方の活用を図りつつ、新たな時代の音楽大学における教育の在り方の探求でもありました。

既報の通り、昨年6月より学内で開始した演奏会に関しましては、12月の東京芸術劇場におけるオーケストラやウィンドアンサンブルの定期演奏会をハイライトとし、例年約100回開催している公演のうち、2020年度においても予定していた約7割を実施することができました。

「いかに人々の生活環境が変わろうとも、音楽芸術に心を癒され、これに明日を生きる活力を見いだすという、人間が生来持つ本性は 普遍である。」

——これは昨年、1回目の緊急事態宣言発令時に、「学長メッセージ」として全学生と保護者の方々に発信させていただいた言葉ですが、私のこの言葉が正しいと証明してくれたのは、奇しくもその学生たちでした。芸術活動は、緊急事態において不要不急のものとされがちですが、彼らの演奏により、音楽は、そもそも危機の状況においてこそ、平常時にも増して人々に喜び・感動を与えてくれるのだということを再確認いたしました。おそらく学生たちもこの未曾有の事態下において、“音を発する”という意味を、改めて考えてくれたことと思います。

本学が、音楽大学の特性を自覚し、その学びを止めない仕組みの構築——オンライン授業と対面授業を組み合わせ実施するいわゆるハイブリッド型による授業や入学試験の展開、全学生に対する対面による前・後期実技試験の実施、相当数のさまざまな形態による演奏会の開催等により、学外におきましても高い評価を得ることができたことは、学生の安全を守り、武蔵野音楽大学とし

での教育を継続するための努力をし続けてくれた教職員の存在は勿論ですが、なにより大学の方針を理解し、ルールを遵守しながら苦しい日々の中、鍛錬し続けてくれた学生のおかげでもあります。全ての皆様に心から敬意を表し、感謝申し上げる次第です。

2021年度—— オンキャンパス（対面）授業実施の意義

そして、2021年度において本学では、引き続き感染予防対策を徹底した上で、オンキャンパス、すなわち通学を前提とした対面での授業・レッスンを基本とする実施方針を掲げました。その理由は、レッスンと同様に臨場感を重視する各種授業の要望への対応と、それに伴う学生の移動や教室使用状況等の総合的な勘案は勿論ですが、なにより、大学は学生と教職員との間、あるいは学生相互間の人格的な関係の構築の場、豊かな人間性の涵養の場であります。とりわけ、「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を教育方針として定めている本学といたしまして

は、その点は特に重要と考え、上記の判断をいたしました。ただし、さまざまな事情により対面授業に参加できないケースが予想されることから、一部の学生が外部からZoomを用いてライブで参加するハイフレックス授業も幅広く取り入れ、また、事態の推移によっては、本学の活動制限指針に基づき、授業の一部または全てをオンラインに切り替える可能性も保持するなど、大学運営においては柔軟かつ迅速な工夫と実施を図っていく所存です。また、ホール・図書館等の施設利用など、江古田新キャンパスが持つさまざまなリソースを活用することによって、最大限の教育効果を得たいと思案しています。いずれにせよ、本学学生が充実したキャンパスライフを送ることが出来る環境を整えることが、現下最大の使命であると考えております。皆様におかれましても、健康管理や感染防止に十分留意して日々お過ごしください。

最後になりますが、今後とも皆様の深甚なるご理解と、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
(2021年4月12日)

令和2年度 音楽学部卒業生新人演奏会

令和3年4月22日
ブラームスホール



生田夢弥 (マリンバ)



酒井 彩 (ソプラノ)



佐藤和鷹 (オーボエ)



高見澤桃香 (ピアノ)



姉川桃子 (ソプラノ)



濱欠直毅 (トランペット)



辻 友香 (ヴァイオリン)



岸 明日香 (ピアノ)



私と母、絵と音楽

ヤマザキマリ | 漫画家・文筆家

古代ローマ人が現代日本の銭湯にタイムスリップするという奇想天外な漫画『テルマエ・ロマエ』の作者として知られるヤマザキマリさん。14歳でヨーロッパを一人旅、17歳からイタリア美術留学、イタリア人のご主人と結婚後もアメリカ、ポルトガル、シリア、エジプトなど多くの国々を行き来する行動派です。昨年帰国したところでコロナ禍に飲み込まれ、以来、ずっと日本に足止めされていますが、どんな経験も決してムダにはならない、パンデミックから得るものも必ずあると前向きに捉えておられます。そんなヤマザキさんの芸術への志向を導いたのが、ヴァイオラ奏者であったお母様。ヤマザキマリを生み出した母と娘の関係について、創作における音楽の役割について興味深い文章を届けてくださいました。

ヤマザキマリ Mari Yamazaki

漫画家・文筆家。東京造形大学客員教授。1967年東京都出身。1984年に渡伊、フィレンツェ国立アカデミア美術学院で美術史・油絵を専攻。その後エジプト、シリア、ポルトガル、アメリカを経て現在イタリア在住。2010年『テルマエ・ロマエ』で第3回マンガ大賞受賞、第14回手塚治虫文化賞短編賞受賞。2015年度芸術選奨文部科学大臣賞新人賞受賞。2017年イタリア共和国勲章コメンダトーレ綬章。著書に『スティーブ・ジョブズ』（ワルター・アイザックソン原作）『プリニウス』（とり・みきと共著）『オリンピア・キュクロス』『国境のない生き方』『ヴィオラ母さん』『たちどまって考える』など。

音楽を絵で表す

憧れていたわけでもなければ、やってみたいと思ったこともないのに、気がついたら漫画を描くことが私の職業になっていた。もともと画家を目指して17歳でイタリアへ渡り、フィレンツェの美術学校に入って油絵を描き続けてきたが、いつまで経ってもそれだけで食べていける見通しは立たず、当時付き合っていた彼氏との間にできた子供を産もうと決めたのをきっかけに、油絵よりはいくらか経済生産性のある漫画を描こうと決めたのが28歳の時。私が人生で初めて描いた漫画はブラジルの北東部を舞台にした、ブラジル音楽がテーマの物語だった。



イタリア留学時代のヤマザキさん

熱心な漫画読者だったわけでもない私は、創作のヒントとして日本で流行している漫画を読むという発想もなかったし、やってみたこともないジャンルの表現でいきなり投稿作品から軌道に乗せようなど大胆なことを考えていたわけでもなかった。だから、心の赴くままに、これなら描けそうだと思うものをイメージしてみたところ、頭の中に湧き上がってきたのは物語ではなく、子供の頃からずっと好きで聴き続けてきたブラジルの音楽だった。

音楽を絵で表すというのは、クリムトやジョルジュ・ブラック、パウル・クレーを始め、世界の様々な画家たちが試みてきたことだ。日本の版画家である棟方志功も創作に音楽を欠かさない表現者だったが、ベートーヴェンの「第九」を聴きなが

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック作
ムーラン・ルージュのダンサーを描いた「ジャンヌ・アヴリル」(1893)

ら彫ったという彼の巨大な版画作品はまさに具象化した音色と言えるだろう。または、音楽がテーマではなくても、画面の中から音が聞こえてくるような絵画というのはたくさんある。絵の中に楽器を持って歌っている人がいれば、その絵を見ている人の想像力はその描かれた楽器から聞こえているはずであろう音を模索するだろう。ルノワールの「ピアノを弾く二人の少女」を見ても、ロートレックの「ムーラン・ルージュ」を見ても、私達の想像力はそこに響く音を頭の中で響かせられるようにできている。

漫画家として仕事をするようになってから気が付けば四半世紀が過ぎ、ブラジル音楽を題材にした初めての投稿作品以来いくつもの作品を描いてきたが、あの頃と変わらないのは今でも漫画の作業に入る時も、入った後も、どんな時にも音楽が欠かせないということだ。曲を作った人の世界観が具体的な歌詞や音が入っている音楽以外であれば、特にこれではなければいけない、というものは無い。私がよく聴くのはクラシックやジャズ、南米の音楽、そして歌詞に深い意味が込められていないポップ・ミュージックなどだが、中でもクラシックとジャズは思い描いているストーリーの展開を自然に促してくれる効果が強く、どんなにネタが出ない時でも、たいてい何となく描きたい話の筋が浮かんでくる。映画音楽も、意

外と独自のイメージを膨らませるのに適したジャンルだ。とにかく、私の脳は、音楽さえ聴けば無意識にしている、頭の中にストーリーや映像が浮かんでくるという仕組みになっている。

音楽がもたらすイメージ

今から40年以上前にもなるが、小学校3年生の頃、学校の学芸会で「南京豆売り」という古いキューバの名曲を学年全体で演奏することになった。この時私に割り当てられた楽器はマラカスで、南国の音を演出するうえで一番重要となる役割をひとりで担う責任感から、家にいてもラジカセで常にこの音楽のテープを聴くようになった。来る日も来る日も「南京豆売り」を聴いているうちに、キューバという勿論行ったこともなければ全く想像もつかない異国の海岸で、南京豆を売る少年の姿が頭の中に思い浮かんでくるようになり、そのイメージを紙に描いて友達に見せたりしていた記憶がある。友達はきょとんとしていたが、あの頃もう私の中では音楽と映像はしっかりと繋がっていた。

音楽を聴けば絵を描きたくなるというこの衝動のきっかけを作ったのは、ヴィオラ奏者でもある私の母だ。母は、昭和30年代初頭、実家のある東京をひとりで離れ、創設されたばかりの札幌交響楽団に入団、若手の指揮者と結婚をするも数年後に未亡人となり、その後私と妹のふたりを女手ひとつで育ててきた昭和一桁生まれの逞しい女性である。

私が子供だったころは、日々演奏会のための練習だ、本番だと忙しい母と一日一緒に過ごせることは殆ど無く、幼い私と妹はよく二人きりで留守番をしなければならなかった。でも時々、私達に聴かせたくなる楽曲が演目にあるときはコンサート会場まで連れて行って、客席の一番前に我々を座らせることがあった。ルロイ・アンダーソンやガーシュウインのようなジャズの要素の濃いアメリカの作曲家のもの、クリスマス時期にはチャイコフスキーの「くるみ割り人形」。ラヴェルの「ボレロ」。そういった曲の演奏がある時は、間違いなく同行させられた。

とはいえ、母には面白くても娘たちにとっては退屈でたまらない演目が並ぶ場合もあった。ショスタコーヴィチやシベリウス、難解なメシアンなど、楽章が終わるたびに「ああ、

どうかここで終わりを告げる拍手が始まって！」と念じてしまうほど、子供の耳にはつまらない曲を聴かされるときもあった。待てど暮らせど終わることのないそんな演奏会の間、私も妹もしびれを切らし、シートの上から床にずり落ちてみたり、もじもじ動いたりすることもあった。やんちゃな妹に及んでは、わざと声を大きめに喋りかけてくることすらあった。そんな時、ステージで演奏をしている母の視線はもはや指揮者ではなく、最前列の私達に向けられていた。眉間に皺を寄せ、頭をこちらに向けて「頼むからじっとしてて頂戴！」と無言の圧力を送って来る母の眼力は、他の人にも気が付かれると思うほど強烈だった。壇上の母と目が合ってしまったら、私と妹は仕方なく体勢を元通りに直し、母が私達ではなく指揮者を向いてくれるよう、じっと曲に耳を傾けなければならなかった。

音楽を聴きながら、様々なイメージを頭に思い浮かべるようになったのは、この時期からだ。どんな退屈な曲も、想像力を駆使して何がしかのお話のBGMと置き換える。プロコフィエフの子供用の楽曲「ピーターと狼」では、それぞれの楽器の音が物語の登場人物を表しているが、そんな要領であれこれ様々な映像のシーンを管楽器や弦や打楽器の音や旋律



ヤマザキさんのお母様(中央)、左はご主人の祖父(マルコさん)、右は同祖母(アントニアさん)



幼き日のヤマザキさん(右)と妹さん

から想像するのである。リムスキー=コルサコフの「シェヘラザード」やボロディンの「イーゴリ公」はバレエにもなっている楽曲だが、私は曲を聴きながら独特のストーリーを作って、紙芝居にしたこともある。母はやむを得ない手段がもたらしたそんな私の嗜好を好意的に捉えてくれていたし、画家になりたいと言い張り続けた私の主張を否定することは、17歳で留学する前もした後も一度もなかった。

母の願い、母の情熱

母は本当なら娘たちにも音楽家になってもらいたいと心密かに願っていた。数年前に偶然実家の物置から出てきた、私が生まれた1967年から1年間彼女が付けていた育児日記には、その頃来日していたりオーケストラと一緒に演奏をしたピアニストやヴァイオリニストの新聞記事が貼り付けられていて、「娘にもこんな素晴らしい演奏家になってほしい」といった願望が綴られていた。素晴らしい指揮者にあたった時には、その感動を私に語りかける口調で記してあるし、実際私の心が付き始めたころには早速ヴァイオリンとピアノを習わせるようになった。といっても本人が教えるのではなく、ヴァイオリンはオーケストラの同僚の女性、ピアノも母の古くからの友人のピアニストに付くことになったのだが、私は母の願望を実現させることはできなかった。

その育児日記にも書かれているのだが、私はどうやらクラ

シックよりも当時世界を一世風靡していたグループサウンズ系の音楽が好きだったらしく、エレキギターが聞こえてくると踊り出すというようなことも書かれている。クラシック音楽を生業としている親を持ったからといって、その子供たちもクラシックが好きになるとは限らない。私も結局4歳から始めたヴァイオリンは10歳で挫折、同じく4歳で始めたピアノも中学3年生まで続けてあとは独学で勝手に弾くようになった。

その頃母には数十人ものヴァイオリンやピアノの生徒たちがいて、続けられなかった自分の娘たちへの音楽教育を他所様の子どもたちへ施すことに熱心になっていたが、孫(つまり私の子供)ができたときには、早速ヴァイオリンを習得させ、途中からはチェロに持ち替えさせて、自分の組織した子供のオーケストラの一員に加えようと目論んでいた。とにかく母には、音楽こそが人の心を豊かにする史上最強のパワーを持った文化だという確固たる信念があった。

ちなみに彼女の孫は、その後家族とともに引っ越したボルトガルのリスボンの中学校でチェロが弾けることを重宝され、先生たちが組んでいるバンドに参加していたし、高校から引っ越したシカゴでは楽器の弾ける生徒たちで構成された学校のオーケストラのメンバーに加わり、年に2度ほど開かれるコンサートではジョン・ウィリアムズの「スター・ウォーズ」や「ハリリー・ポッター」といったアメリカらしい映画音楽を仲間たちと奏でていた。

何か楽器が弾けるということは、習慣や言語の違いを超越したコミュニケーション・ツールを手にしたのと同じだというのは、息子の国際転校を見ても明らかだった。言葉がわからなくても、良い演奏を聴かせてくれる人は好感を持たれるものである。楽器が弾けなければ、歌だっていい。母は音楽の素晴らしさを知ることと、楽器の演奏を身につけることがどれだけ人生を支える力となってくれるかを力強く説いてきた人だが、それについては私も同感である。楽器演奏者にはならなかったが、彼女の音楽への情熱は私もそのまま受け継いでいる。

これからも音楽と共に

音楽は、例えば今のような自由を制限された暮らしの中でも、

不安定になりがちな人間の精神に安定をもたらしてくれる必要不可欠な要素だと感じている。

私は普段はイタリア人の家族と北イタリアのパドヴァという街に暮らし、日本とは1ヵ月おきに往復しながら過ごしてきたが、コロナ禍に入ってから去年の正月以来パドヴァの家には戻れていない。それでも最初の頃は、たとえ様々な制限があっても何十年かぶりの日本での暮らしをそれなりにやり過ごせそうな、前向きな気持ちになっていた。ところが、日が経つにつれ、世界中を仕事やプライベートで旅をし続けて来た私にとって、全くどこへも移動のできなくなってしまった“新しい日常”を受け入れるのが厳しくなり、このままだと鬱病になってしまうのではないかと危機感にも見舞われた。

重症かもしれないと感じたのは、いつも聴いているような音楽を掛けても、映画を見ても、漫画を描くモチベーションが上がらず、制作のペースもスローダウンしてしまった時だ。しかし、そんな私を心配してくれた友人が、それまで私あまり聴いたことのないジャンルの音源を送ってくれるようになって、なんとかその苦境から回復することができた。それまで聴くことのなかった新しい音楽や映像は、それまで旅や移動でしか感じられないと思っていた、新しい価値観の発見と同質の高揚を私に与えてくれた。

最近観たジェームス・ブラウンの伝記映画の中で、人間や社会の過酷さや不条理と幼少期から向き合ってきた風雲児ジェームスが「音楽だけが俺を正気にしてくれる」と言い放つシーンがある。たとえどんなに孤独でも、どんな悲しみや辛さを強いられても、音楽があれば自分は大丈夫だというその一言に強い同調を覚えた。それはきっと、かつて両親のもとを飛び出して、縁もゆかりもない北海道のオーケストラに



コロナ禍のなか、ヤマザマリさんがお描きになったアマビエ。アマビエは疫病を鎮める妖怪とされています

飛び込んだ母も、様々な窮地で抱いた感慨だと思う。

ちなみに私は、そのうち漫画家を引退したら、学生時代のように油絵に戻りたいと考えている。母が望んでいたようなヴァイオリニストにもピアニストにもならなかったけれど、絵で音楽を表現する音楽家というのもいたっていいだろう。これからも極上の音楽をどんどん耳に入れて、この世に人間として生まれた醍醐味を死ぬまで存分に満喫していきたい。



ヤマザマリさんが、お母様（リョウコさん）の波瀾万丈の人生を綴った『ヴァイオリン母さん』（文藝春秋刊）

モンテヴェルディ、ヴェネツィアと黒死病

クラウディオ・モンテヴェルディ(1567-1643)はルネサンスからバロックの移行期に活躍し、ヴァラエティに富んだ多くのマドリガーレと現存する3つのオペラ——《オルフェオ》(1607年)、《ウリッセの帰還》(1641年)と《ポッペアの戴冠》(1642年)——によって、その名を不朽のものとしている。また1613年、作曲家としては当時最高の地位であった、ヴェネツィアのサン・マルコ寺院の楽長に任命され、宗教音楽も多く手がけている。なお1637年には、ヴェネツィアでサン・カッシャーノ劇場が開場し、市民に開放された世界初の劇場となる。音楽産業が花開いたヴェネツィアに、彼のオペラが華を添えたことは



フランチェスコ・グアルディ(1712-1793)作
[11月21日、聖マリア・デッラ・サルデーテ聖堂でのヴェネツィア総督——1630年のペストの終息を記念して]

間違いない。

しかし、こうした輝かしい活動の背後で、黒死病(ペスト)の流行が暗い影を落としていたことは、あまり知られていない。

17世紀にイタリアを襲った黒死病の流行は、1629年、マントヴァから始まる。同年10月ミラノに拡がり、1630～31年にはヴェネツィア、ボローニャ、モデナ、パルマを襲う。フィレンツェでも、1630～33年と長期に渡って黒死病が流行した。これらの都市で人口の1/3から半数が亡くなり、ここに多くの音楽家も含まれる。モンテヴェルディの《オルフェオ》で台本を書いたアレックスandro・ストリッジョも、まさに1630年に黒死病で亡くなっている。

ヴェネツィアにいたモンテヴェルディにとって、1630年代は作曲数も少なく、苦難な年だったにちがいない。この頃の作品に、《聖マリア・デッラ・サルデーテの祭りのための荘厳ミサ》がある。その名も「救済の聖母マリア聖堂」は1630年に、建前としては、聖母マリアに捧げるために建設が決定された。しかし建設の真意は、黒死病終息への祈りだったであろう。このミサ曲は、黒死病が終息した1632年に初演された。彼の作品のなかで決して目立つ存在ではないが、黒死病終息への喜びと感謝が透けて見え、美しい。

絵のように、聖マリアの奉獻の記念日に当たる11月21日は、ヴェネツィアにとって健康を祈る大事な日とされる。そのきっかけは黒死病の終息である。われわれにとって、その日はいつ来るのだろうか。

Musashino Topics

▶ 本学名誉教授の称号授与

永年にわたる教育上、学術上の顕著なご功績により、令和3年4月1日付で大滝雄志(声楽)、川辺 真(作曲)、ツォルト・ティバイ(コントラバス)の三氏に、それぞれ武蔵野音楽大学名誉教授の称号が授与されました。

▶ 令和2年度音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂)

令和3年3月、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京の5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が開催され

ました。

本学からは、主演：辻 友香さん(ヴァイオリン独奏)、助演：糸谷 恩さん(ピアノ伴奏)が出演し、コルンゴルト作曲ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35から第3楽章を披露させていただきました。

▶ 令和2年度クロイツァー賞受賞者

日本のピアノ音楽発展に寄与した故レオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。教授とゆかりが深かった東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院修了生から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。令和2年度、本学からは大学院音楽研究科修士課程器楽専攻ヴィルトゥオーゾコース修了の吉原麻実さんが選ばれました。

受賞者による演奏会は、令和3年6月14日19:00 東京文化会館小ホールで開催されます。

希望の旅立ちと新たな出会い

旅立ち

2021年春、例年より早い桜の開花を迎えた江古田、入間の両キャンパスを舞台として、大学・高等学校・幼稚園それぞれに旅立ちと新たな出会いがありました。以下、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら行われた卒業式、入学式、および関連行事の様子をお届けします。

大学

卒業式・学位記授与式・別科修了式・卒業演奏会

令和2年度 武蔵野音楽大学 音楽学部卒業式、大学院学位記授与式、別科修了式が、令和3年3月23日、本学ペーヴェンホールにて挙行されました。

荘厳なオルガンの前奏に続き学位記の授与が行われ、最初に大学音楽学部の各専攻の代表が壇上に上がり、総代の辻友香さんが福井直昭学長より卒業証書・学位記を受け取りました。続いて大学院修了生には長きにわたる研鑽が称えられ、一人ずつ学長より学位記が手渡されました。最後に大学別科修了生の代表に修了証書が授与されました。

学長式辞では「新型コロナウイルス感染症拡大で世界的に価値観、生活様式が一変しました。どう人々の生活が変わろうとも音楽は常に人の心に寄り添っています。音楽を専門に学んできたことがいかに幸せか、その意義や価値を深く考えてください。そして、あらためて武蔵野の建学の精神「〈和〉のこころ」について考え、他者を尊重し協調しながらも、自立して問題提起や解決ができる音楽人になってください。この武蔵野での学びを活かし、明るい未来を築かれることを期待しています」と熱いエールが贈られました。卒業生を代表して菅原光晟さんが答辞を述べ、華やかな弦楽合奏の奏楽で式は締めくくられました。

式終了後、卒業生たちは密にならない様に配慮されたフォトスポットに集い、久しぶりに会う学友たちと思い出のキャンパスをバックに



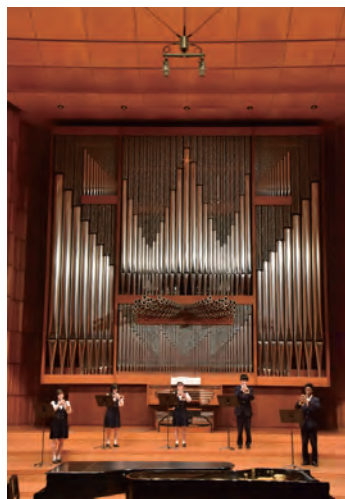
晴れやかな笑顔で記念撮影をしていました。

式典への参加は卒業生や修了生のみ限定されたため、ご参列いただけなかったご家族等の皆様には、式



典とキャンパスの様子を収録した動画を後日ネット配信し、学生たちの晴れ姿を観ていただきました。

また、3月21日から23日の3日間、「令和2年度卒業演奏会」をペーヴェンホールで開催。関係者のみを対象とした演奏会となりましたが、出演者は4年間の研鑽の成果を存分に発揮して素晴らしい演奏を披露し、有終の美を飾りました。



附属高等学校

ドリームコンサート・卒業式

附属高等学校の授業成果を披露する場であり、地元の皆様にも好評の「ドリームコンサート2021」が、2月28日、入間キャンパス内のバッサザールにて行われました。卒業生にとっては仲間と一緒に取り組む最後のコンサートとなり、思い出の1ページとなったことでしょう。

入間キャンパスの梅が満開となった3月8日には、令和2年度卒業式がバッサザールにて挙行されました。幕開けは、石丸由佳先生によるパイプオルガンの奏楽「『降り注ぐ光』への前奏曲」。この曲は本校ソルフェージュ・作曲担当の伊東光介教諭が作曲したもの。卒業生たち自身に、また各々がこれから歩む道に、光が照らされるように祝福と希望の気持ちで込められた作品です。

心のこもった送辞や答辞、聴く者に万感の思いを胸に抱かせた卒業生による「上げば尊し」の合唱など、厳かな雰囲気の中心に残る式典となりました。





附属幼稚園

お別れ会・修了式

3月下旬、第一・第二・武蔵野の各幼稚園で、お別れ会や修了式が行われました。卒園児は、ご両親や先生に向けて「ありがとうこころをこめて」の歌を一生懸命に歌い、保護者主催の謝恩会では趣向を凝らした出し物を楽しみました。年少・年中組の友達からは感謝の言葉と手作りのプレゼントを贈られるなど、思い出に残るひとときを過ごしました。温かく見守った保護者の皆さんの目には、3年間で成長した子どもたちがさぞかし頼もしく映ったことでしょう。



大学

入学式・新入生歓迎行事

令和3年度武蔵野音楽大学 音楽学部、大学院、大学別科の入学式が4月1日、ベーターヴェンホールで挙行されました。

学長式辞では「入学された学生の皆さんには、本学の歴史と建学の精神をしっかりと理解して、学生として認識を共有して共同体意識を持って武蔵野の活力の向上を担ってほしい。これから始まる大学生活を成功させるには、勉学に真摯に取り組むこと、自身の生活は自分でマネジメントすること、そして良き友人を作ること」と、将来の夢に向かって一步を踏み出す新入生諸君に力強く語られました。なお、式典の様子をおさめた動画を後日、ネット配信しました。



4月10日には学友会主催の新入生歓迎会がベーターヴェンホールで開催されました。金管楽器専攻学生によるファンファーレに始まり、学務部長、学友会委員長の挨拶、歓迎演奏会と続き、後半はクラブ・同好会の紹介が行われ、それぞれに工夫を凝らして活動のアピールをするなど、新入生たちを温かく迎えました。江古田キャンパスが笑顔と活気に包まれるなか、武蔵野の新年度がスタートしました。



附属高等学校

入学式・始業式・新入生歓迎演奏会

自然豊かな人間キャンパスが桜に彩られる季節、4月4日、令和3年度入学式がバウホールにて挙行されました。パイプオルガンによる奏楽から始まり、新入生はやや緊張気味だったものの、保護者と先生方に見守られて式は粛々と進行了しました。



翌5日には始業式と新2・3年生が演奏を披露する新入生歓迎演奏会が実施されました。演奏会は本番を経験する演奏者だけでなく、新入生にとっても大きな刺激となったことでしょう。6日の福井直昭校長による訓話から、本格的に1学期が始まりました。

附属幼稚園

入園式

4月初めの桜の花びらが舞うなか、第一・第二・武蔵野の各幼稚園では入園式が行われました。少し緊張している新入園のお友達もいましたが、どの顔にもこれから始まる園での生活にワクワクしている様子がうかがえました。一人ひとりの、これからの成長がとても楽しみです。



出
会
い

武蔵野を支える人々

「キャンパスレストラン Intermezzo スタッフ」



江古田キャンパスE棟の地下1階、リストプラザに面して設けられているキャンパスレストラン「Intermezzo」。有名レストラン「銀座スエヒロ」が運営を手掛ける、明るく清潔で開放感あふれる居心地のいい食空間です。Intermezzoは「間奏曲」を意味し、洗練されたメニューで午後に向けてのエネルギーを貯えたり、授業やレッスンの合間に一息ついたりすることのできる、キャンパスライフの小粋なアクセントを演出するスペースになっています。今回は、日々美味しい料理を提供してくれているスタッフの方々、シェフで責任者の寺島勝さんと調理補助の西山かほるさん、川田文さん、保科澄江さんの4名にお話を伺いました。(2021年2月25日取材)

スエヒロブランドの味を提供

—— 最初に、Intermezzoの紹介をお願いします。

寺島 落ち着いた雰囲気の中で食事していただけるレストランです。何より、「銀座スエヒロ」というブランドのお料理を手頃な値段でご提供できるのが、最大のアピールポイントです。リストプラザに面していますので、天気のいい日には外のテーブル席で気持ちよく食事することもできます。席数は、今はコロナの感染予防で若干減らしていますが、通常は外のテーブル席も合わせて170席。営業時間は、こちらも現在は時短営

業ですが、通常、食事は午前11時から午後2時まで、カフェは午前9時から午後4時までです。

—— スタッフは何名いらっしゃいますか？

寺島 責任者1名、社員1名、あとは5名のパートさんでローテーションを組んでいます。

—— メニューの種類は？

寺島 食事のメニューは5品程度。週ごとにメニューの入れ替えをしていますので、献立表を見ていただければと思います。現在、献立表はサンプルケースのところに貼っているだけです。もう少し皆さんの目にふれるようにするのが今後の課題。学生さんや教職員の方が目にする掲示板やネット等で献立表を紹介していただいて、より多くの方に利用していただけると嬉しいです。

—— 新メニューも定期的に開発されているのでしょうか？

寺島 そうですね。うちの会社には商品企画という部署があり、春なら菜の花を使ったパスタですとか、秋ならキノコを使ったメニューなど、そのときどきの



▲ 寺島シェフ(右)と補助するスタッフ

旬のものを取り入れて提供しています。

—— 人気のメニューを教えてください。

寺島 メニューは変動しますが、常に人気のあるのはオムライスですね。あとスエヒロと言えばやはりステーキ、ハンバーグですから、そちらも好評です。

川田 オムライスはボリュームがあって、若者向きだと思います。

寺島 学生さんには、ボリュームは大切なポイントのようです(笑)。

—— お客さんから料理に関するリクエストが来たりしますか？

寺島 女性はやはりカロリーを気にする方が多く、野菜中心のメニューを考えたこともあります。ネギやグリーンピースなどの苦手な方もいらっしゃって、そういう方には取り除いて提供しています。

—— ネギなどが苦手というのは、やはり学生に多いのでしょうか？

寺島 いえ、教職員の方のなかにもおられます(笑)。

西山 あと、福神漬や紅生姜が要らない、という方もけっこういますね。

川田 ご飯を少なめに、という方も多いですよ。女性だけでなく男性も。

「美味しかった」の一言に やり甲斐

—— 武蔵野のレストランで働く楽しさ、やり甲斐などをお聞かせください。

保科 日々学生さんと接するなかで、笑顔で「ごちそうさま」「美味しかった」と食器返却の際に声をかけていただくと



▲ 明るく開放感あふれる食空間

嬉しいですし、仕事のやり甲斐にもつながりますね。

西山 やはりキャンパス自体ができたばかりなので、そこで働けるのは気持ちいいです。そして孫のような世代の若者と接するのは、とても楽しいですね。皆さんしっかり挨拶してくれますし。若いエネルギーをいただいて、日々若返っている感じです(笑)。

寺島 スエヒロに入社して12、3年たちますが、学食で働くのは武蔵野が初めてです。食欲旺盛な若者向けに料理を作るのは、楽しくやり甲斐を感じています。

—— 学生や教職員とのふれあいのなかで、何か印象深いエピソードなどありますか？

川田 以前、卒業間近の学生さんがレストランまで来てくれて、一緒に記念の写真を撮ろうと言ってくれたんです。すごく嬉しかったですね。

西山 料理を手渡すまでの短い時間のなかでカウンター越しに声を掛け合うだけですが、それでも顔なじみの学生さんや教職員の方々とのやりとりは楽しいです。

寺島 このレストランは高性能のスピーカーシステムなども備えており、各種のパーティーやレセプションにも対応できます。コロナ禍でこのところは減っていますが、例年月に1回程度、教職員や学生の行事としてパーティーが行われるのですが、その際には皆さんと親しくお話をいただいています。



▲どれも美味しそうな「本日のメニュー」

川田 ご飯の大盛りはプラス50円なんですが、器に盛れる範囲でリクエスト通りに増量してあげられます。中には驚くほど大盛りにする学生さんがいて、みんな目を丸くしています。

寺島 大盛りを楽しみにして来てくれている子が何人かいますね。ただ、不思議なことにそうした学生さんは、みんな身体が細いんです。「どんなに食べてもお腹いっぱいにならない」なんて言っていました(笑)。

レストランクオリティの味自慢

—— 味自慢のIntermezzoですが、皆さんのイチオシ料理は何でしょう。

保科 今はお休みしていますが、一番好きなのはグリーンカレー。絶品です。こんなにおいしい料理を学食で食べられるなんて、羨ましい限りです(笑)。

寺島 グリーンカレーはスエヒロでも人気のメニューです。今は提供していませんが、リクエストが多ければ再開することは可能です。

川田 鶏肉の香味ソースがけ、これは最高です。寺島チーフのつくるソースには、ネギだけでなくパプリカやキュウリなども入っていて、本当に美味しいです。

寺島 ^{ユーズンチー}油淋鶏のソースに野菜が入っているようなイメージですね。

西山 グラタン、ドリアは、メニューにある日にはいつも売りきれれてしまいます。つくっただけ確実に売れてしまいますね。熱々でお出しますので、メニューにある日には、チーフは延々と調理しています。

寺島 スエヒロの売りのひとつがソースです。麻婆丼のソースやエビチリのソースなど、ソースへのこだわりが強く、それと同じものをここでも使ってい



▲天気の良い日はリストラザが青空レストランになる

ますから美味しいと思います。

—— 学食ながら有名レストランのクオリティということですね。お腹が空いてきました(笑)。では、最後に武蔵野の学生に向けてのメッセージをお願いします。

西山 コロナで利用する学生さんが減り、今は寂しい思いをしています。終息したら、たくさん来ていただいて、たくさん食べていただきたいですね。

川田 4月には新入生も来られますが、美味しい料理をお出しますので、ぜひ食べにいらしてください。

保科 学食で過ごす時間が、皆さんの楽しい学生生活の一部になればと願っています。

寺島 皆さん忙しいでしょうが、お昼の時間だけは勉強のことは忘れてお腹いっぱい食べて、また午後から頑張ってください。4月からの新メニューとして、養老乃瀧さんの牛丼とスエヒロのカレーで“牛カレー丼”のようなコラボメニューを予定しています。ぜひ、ご期待ください。

—— 本日はどうもありがとうございました。



▲左から寺島さん、西山さん、保科さん、川田さん

学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

坂本慶子様	三戸大久様	下道ヨシ子様	杉田晶子様	林 秀樹様
役員・教職員・一般・他				
石井牧子様	坂下裕子様	関根弘美様	堀内康雄様	門馬美恵様
岡 珠世様	佐々木亜紀様	永岡信幸様	前川慎一郎様	由田真実様
窪田敬子様	重松 聡様	野村邦武様	前澤君恵様	渡邊規久様
坂下 寛様	清水弘治様	福井直敬様	持田隼人様	

(他に匿名を希望される方10名)

※ご芳名(五十音順)は、令和2年11月1日から令和3年3月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

編集後記

コロナ禍が収束を見えないなか、2021年度がスタートしました。まだ多くの場面で不自由を強いられるでしょうが、こんな時だからこそ、自分自身を見つめ直し、いま何をすべきか熟考することが大切ではないでしょうか。巻頭に登場したヤマザキマリさんも、著書のなかで「パンデミックは、我々にいったんたちどまって学習する機会をあたえてくれた」と述べています。今回の経験をコロナ後に活かすためにも、常に前向きに一日一日を充実させたいものです。

本誌MUSASHINO for TOMORROWは、本号より、これまでの年4回発行を3回にし、デザインも一新しました。内容を含めて、より読みやすく、より親しみやすく、読者の皆様に愛される誌面づくりに今後とも努力していきます(編)。

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

名称	内容	氏名(経歴)
2020年度 第58回レコード・アカデミー賞	特別部門 一吹奏楽/管・打楽器 受賞	柘尾克樹(本学講師)
第1回バーバラ・ビュールマン作曲コンクール(主催:ミッドウェスト・クリニック)	中学校バンド向け作品部門 優勝	小田実結子(平成28年大学作曲専攻卒業、大学院修了)
第26回KOBE国際音楽コンクール	声楽部門 C部門 優秀賞受賞	松田晏菜(大学2年声楽専攻)
第21回北関東ピアノコンクール	一般Sの部 第2位入賞	兼田晏妙(大学院2年ピアノ専攻、平成31年大学卒業、附属高校卒業)
第3回東京国際マリンバコンクール	第3位入賞	生田夢弥(大学4年マリンバ専攻、附属高校卒業)
2020年度 第30回 日本クラシック音楽コンクール	チューバ部門 大学の部 第5位入賞(1, 2, 3位なし)	石田 翼(大学3年チューバ専攻)
第22回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(動画審査)	シヨバニストS部門 金賞受賞	戸畑和子(昭和62年大学ピアノ専攻卒業、大学院修了)
第14回ペーテン音楽コンクール	自由曲コース ピアノ部門(全国大会) 一般CⅡ 第1位入賞	松尾祐子(昭和54年大学ピアノ専攻卒業)
	自由曲コース ピアノ部門 動画審査(全国大会) 一般CⅠ 金賞受賞	依田真理(平成2年大学ピアノ専攻卒業)
	自由曲コース ピアノ部門 動画審査(全国大会) 一般CⅡ 銀賞受賞	望月美奈(昭和61年大学ピアノ専攻卒業)
第6回K金管楽器コンクール	第1位入賞	白井有琳(大学4年ホルン専攻)
	第3位入賞	杉田優希(大学1年ユーフォニアム専攻)
第12回全日本ピアノオーディション全国大会	映像審査 専門Special部門 銀賞受賞(金賞なし)	恒本優花(大学1年ピアノ専攻)
第15回西関東ピアノオーディション	専門Special部門 グランプリ受賞 杉並区長賞受賞	恒本優花(大学1年ピアノ専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。掲載は順不同、敬称略、経歴は受賞時のものです。

2021年度 夏期講習会

2021年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会(音楽大学受験講習会、高校受験講習会、免許法認定講習)を、下記のとおり実施します。

講習会名	期間
大学受験講習会	I期 8/1(日)~8/3(火)
	II期 8/26(水)~8/28(金)
高校受験講習会	I期 8/1(日)・8/2(月)
	II期 8/26(水)・8/27(金)
免許法認定講習 ※教員免許状更新講習とは異なります。	7/22(水)~8/2(月)
会場	
武蔵野音楽大学 江古田キャンパス	

2021年度 教員免許状更新講習

武蔵野音楽大学では、2021年度も教員免許状更新講習を開講します。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域6時間と選択必修領域6時間、そして選択領域18時間、合計30時間を開講します。

領域	期間
①必修領域(6時間)	7/22(水)・7/23(金)の2日間
②選択必修領域(6時間)	
③選択領域(6時間×3日間)	7/24(土)~7/26(日)の3日間
会場	
講習はすべてオンラインで実施します	

※詳細は本学ウェブサイト、要項でご確認ください。



2021年6月～10月の演奏会

6/17 ^(木) 18:30	ニュー・ストリーム・コンサート42 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝西嶋由実香 (Fl.)、大森怜也 (Ten.)、入岡美凛 (Pf.)、杉山なつみ (Hrn.) 佐々木成美 (Sax.)、曾田 響 (Pf.)	ブラームスホール (江古田) 無料 (全席自由・要事前予約)
6/18 ^(金) 18:30	ニュー・ストリーム・コンサート43 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝佐藤星龍 (Fg.)、丸山真一郎 (Vln.)、恒本優花 (Pf.)、松田晏菜 (Sop.) 松倉千恵 (Fl.)、目黒遥菜 (Pf.)	ブラームスホール (江古田) 無料 (全席自由・要事前予約)
7/15 ^(木) 18:30	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝飯森範親 曲目＝モンタギュー：イントラダ 1631 (日本初演) バーズ：交響曲 第3番 Op.89 他	東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500 (全席指定)
9/20 ^(月・祝) 18:00	管弦楽団演奏会 指揮＝時任康文 ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者 曲目＝ロッシーニ：《セミラミデ》序曲	ベートーヴェンホール (江古田) ¥1,500 (全席自由)
9/24 ^(金) 18:30	リスト：ピアノ協奏曲 第2番 イ長調 S.125 ラフマニノフ：交響曲 第2番 小短調 Op.27	東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500 (全席指定)
9/26 ^(日) 14:00	附属高等学校音楽科 第25回在校生と卒業生によるコンサート ※お問合せ＝武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL:04-2932-3063	ブラームスホール (江古田) ¥1,000 (全席自由)
10/9 ^(土) 14:00	入間市「市民コンサート」 管弦楽団演奏会 主催＝入間市立中央公民館 入場整理券・お問合せ＝入間市立中央公民館 TEL：04-2964-2413 指揮＝北原幸男 弦楽器独奏＝本学学生オーディション合格者 曲目＝ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調 Op.67《運命》 他	バッハザール (入間) ※入場は関係者に限定されます

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために演奏会の開催が延期、中止または入場者の制限をさせていただく場合があります。

ご来場前に本学ウェブサイトでの確認または、本学演奏部にお問い合わせください。

※チケットは本学ウェブサイトでもご予約ができます。

●お問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

〈オープンキャンパス・学校説明会 & 体験レッスン〉〈中高生のためのステップアップ・プログラム〉

音大や音楽に興味のある生徒の皆さんに向け《オープンキャンパス・学校説明会 & 体験レッスン》を、楽器や歌が上手になりたいという中高生の皆さんに向け一流講師陣による《ステップアップ・プログラム》を、以下の日程で開催します。ぜひご参加ください！

オープンキャンパス	
6/20 ^(日)	8/29 ^(日)
体験レッスン、進学相談 学生によるコンサート	体験レッスン、進学相談 学生によるコンサート
11/3 ^(水・祝)	11/28 ^(日)
授業公開、レッスン公開 学生によるコンサート	体験レッスン、進学相談 学生によるコンサート
会場	
武蔵野音楽大学 江古田キャンパス	

※オープンキャンパスは2022年3月20日にも開催します。

中高生のためのステップアップ・プログラム	
種別	開催日
ピアノ・声楽	10/3 ^(日)
管・打・弦楽器	6/6 ^(日) ・9/26日 ^(日)
会場	
武蔵野音楽大学 江古田キャンパス	

お問合せ | 武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500
E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

学校説明会 & 体験レッスン		
開催日	開催地	会場
5月30日 ^(日)	福島県郡山市	ヤマハミュージック 郡山店
5月30日 ^(日)	大阪府大阪市	カワイ梅田
6月13日 ^(日)	神奈川県横浜市	旭区民文化センター 「サンハート」音楽ホール
6月13日 ^(日)	山梨県甲府市	内藤楽器 本店
6月20日 ^(日)	宮城県仙台市	カワイ仙台
6月27日 ^(日)	北海道札幌市	六花亭札幌本店 きたこぶしホール
7月 3日 ^(土)	静岡県三島市	三島市民文化会館 「ゆうゆうホール」小ホール
7月 4日 ^(日)	富山県富山市	富山県民共生センター 「サンフォルテ」
7月 4日 ^(日)	愛知県名古屋市	日響楽器 池下店
7月11日 ^(日)	香川県観音寺市	ハイスタッフホール 小ホール
10月31日 ^(日)	北海道函館市	ヤマハミュージックリテイリング 函館店 函館中央センター

Contents Vol.137 2021

- | | | |
|----|--------------------|---|
| 1 | ごあいさつ | 「令和3年度を迎えて」 福井直昭 |
| 3 | 巻頭 | 「私と母、絵と音楽」 ヤマザキマリ |
| 8 | 音楽の万華鏡 | 「モンテヴェルディ、ヴェネツィアと黒死病」 稲田隆之 |
| 9 | 希望の旅立ちと新たな出会い | |
| 11 | 武蔵野を支える人々 | キャンパスレストランIntermezzo スタッフ |
| 13 | Campus Information | 学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々
栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
2021年度 夏期講習会・教員免許状更新講習
2021年6月～10月の演奏会
オープンキャンパス・学校説明会&体験レッスン
中高生のためのステップアップ・プログラム |

表紙の
写真

メインロビーのトリニティリング(天井照明)。本学の建学の精神「和」をモチーフに「輪」の形状とし、同時に本学の生活の規範としている3P主義を表すために3つのリングで構成している。



学校法人 **武蔵野音楽学園**

江古田キャンパス | 〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL. 03-3992-1121(代表)

入間キャンパス | 〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL. 04-2932-2111(代表)

パルナソス多摩 | 〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL. 042-389-0711(代表)

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

